

あなたのまっ
つうれいしゃ
「高齢者のイメージ」は？



（
高齢者の人権
）

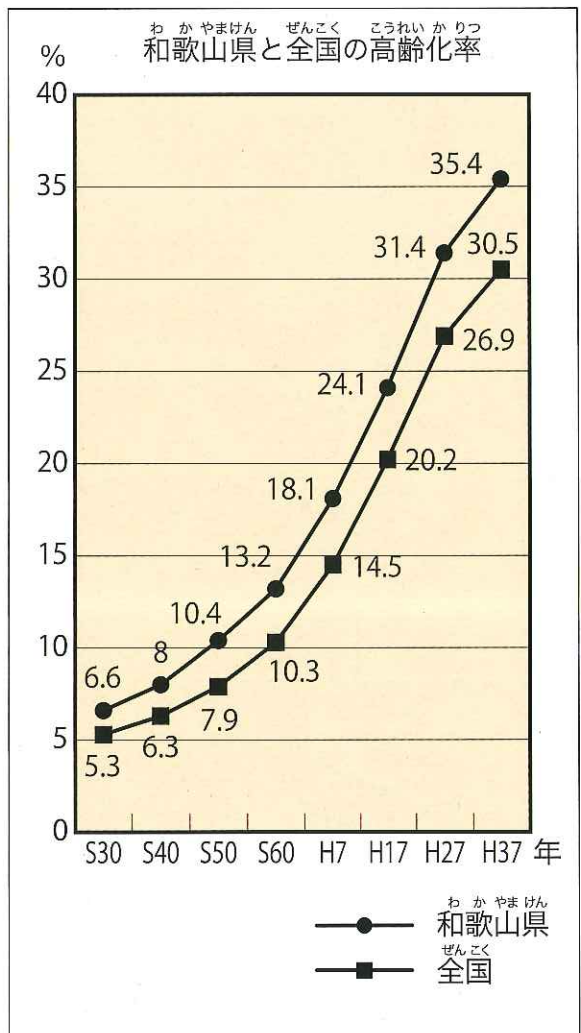
かんが よえ よう



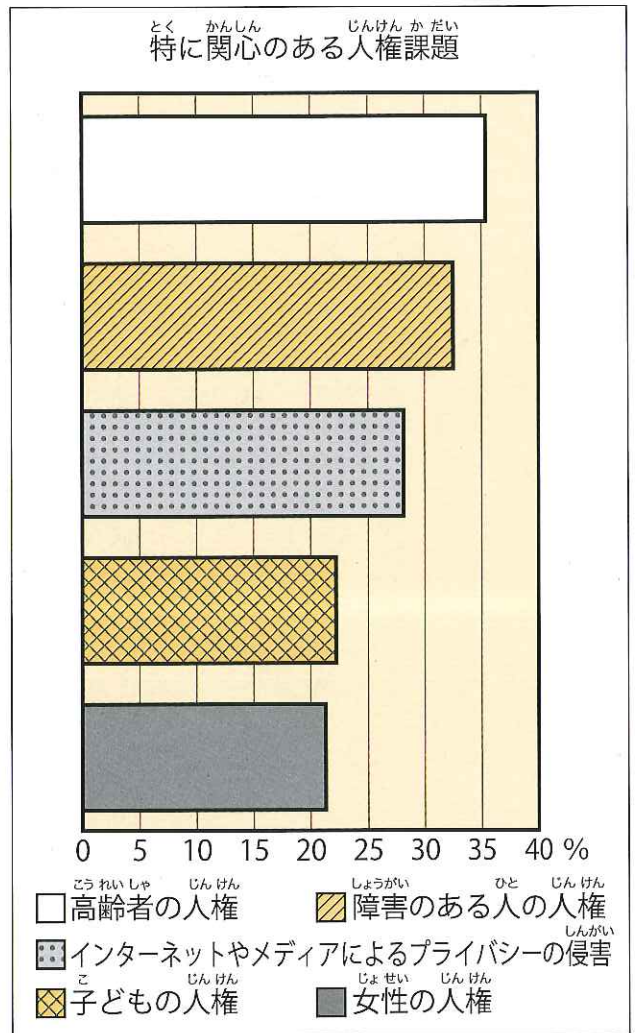


こうれいしゃかい じょうきょう
高齢社会の状況

○グラフを見てみましょう。



そうむしやうとうけいさく こくせいちやうきほうこく こくりつしゃかいほ
 総務省統計局「国勢調査報告」、国立社会保
 障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来
 推計人口」(平成19年5月推計)より



わ か やまけん じんけん かん けんみん い しきちやうさ へいせい
 和歌山県「人権に関する県民意識調査」(平成21
 年2月)より、上位5項目を抜粋

これから我が国の高齢化率(総人口に対する65歳以上人口の割合)は上昇していくと考えられ、世界のどの国もこれまで経験したことのない高齢社会を迎えようとしています。和歌山県をみると、平成23年3月31日現在の高齢化率は26.4%ですが、平成27年には31.4%、平成37年には35.4%となり、およそ三人ひとりが65歳以上となります。これは、全国平均よりもさらに高い高齢化率となっています。また、和歌山県「人権に関する県民意識調査」(平成21年2月)をみると、高齢者の人権は最も関心が高い人権課題の一つとなっています。

このような高齢社会を迎え、誰もが生涯にわたって社会を構成する重要な一員として尊重され、健やかに充実した生活を営むことができるよう、みんなで高齢者の人権について考えてみましょう。



かんが 考えよう じれい 事例その①～

むすめ こうこうじゅけん 娘が高校受験のことで、がぞく そうだん 家族に相談しています。



※この場面を見て...

○娘は、なぜこのように言ったと思いますか。

○おじいさんは、どんなことを言いたかったのでしょうか。

○あなたがお母さんなら、このようなときどうしますか。

○考えたことについて、話し合ってみましょう。



やってみよう ～「聴く」～

高齢者の尊厳を守るためには、高齢者の意志を本人から「聴く」ことが大切です。コミュニケーションの基本となる「聴く」ことを体験をしてみましょう。

○二人ずつ組になり、話し役と聞き役を決めましょう。

そして、【ワークⅠ】【ワークⅡ】をやってみましょう

【ワークⅠ】

1

話し役は、「最近うれしかったこと」について話す内容を考え、聞き役に一生懸命話します。

2

聞き役は、「私はあなたの話を聞いていませんよ」というメッセージを送りながら全く聞きません。

3

やくわり ころたい
役割を交代します。

4

それぞれやってみたことや感想を出し合い、振り返りましょう。

・どのような態度が話を聞かないというメッセージとなるのでしょうか。

・話を聞いてもらえないとどんな感じがするのでしょうか。

【ワークⅡ】

1

話し役は「自分が大切にしていること」について話す内容を考え、聞き役に一生懸命話します。

2

聞き役は、「私はあなたの話をしっかり聴いています」ということを全身で表して、しっかり相手の話を聴きます。

3

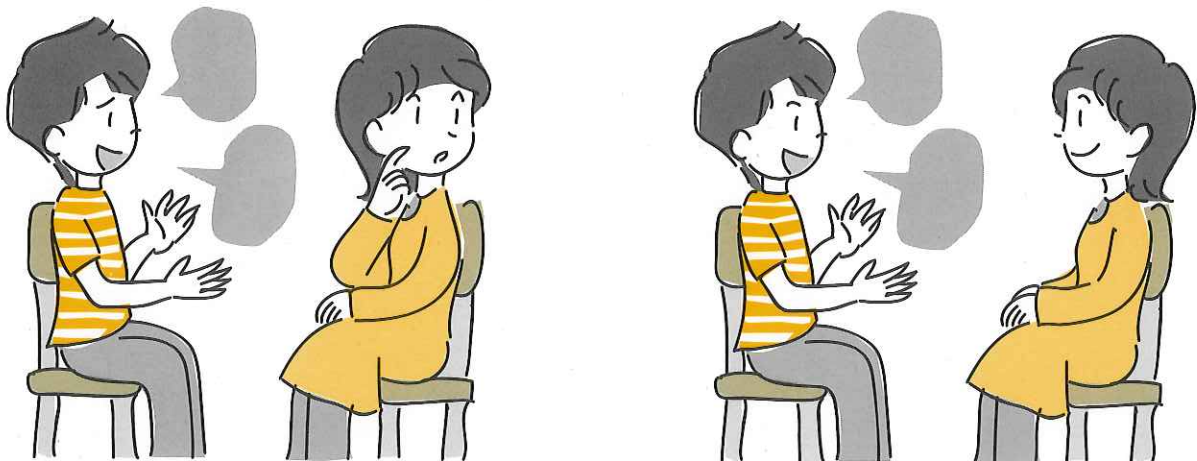
やくわり こうたい
役割を交代します。

4

それぞれやってみたことの感想を出し合いましょう。

・話をしっかり聴くときは、どのような行動をしているのでしょうか。

・話をしっかり聴いてもらえると、どんな感じがしますか。



【ワークⅠ】と【ワークⅡ】を振り返りながら読みましょう。

【ワークⅠ】

聞き役に目をそらされる、違う方向を見られるなどの態度をとられ、話し役はとても話しくかたたのではないのでしょうか。その時、話し役は腹が立ったりいらいらしたり、もう話したくないと思ったかもしれません。しかし、私たちは日常生活の中でよくこうした聞き方をしているのではないのでしょうか。

【ワークⅡ】

聞き役が相づちを打つ、目を見ながら聴いてくれるなどの態度をとると、話し役はしっかりと聴いてもらえた、受け入れてもらえたと感じます。このように「私はあなたの話をしっかりと聴いていますよ。だからもっと話をしてください」というメッセージを送りながら聴くことを「能動的傾聴」といいます。

「傾聴」とは、耳を傾けるだけではなく、からだと心を相手に向けて、共感しながら聴く聞き方です。「共感する」というのは、相手の意見に同調することではありません。たとえば自分の意見とは違っていても、相手の経験、願い、思いから学ぶという姿勢をもって、その相手の意見や感情をまずしっかりと受け止め、理解する。それが共感です。共感しながら聴く「共感的傾聴」は、お互いのコミュニケーションを促すうえで非常に有効な聞き方です。



かんが
考えよう ~事例その②~



もう歳なんだから仕事はやめて家でゆっくりしなよ。

疲れることは若い者がやるから、おじいちゃんは座っててね。

おばあちゃんにはこの服は派手よね。こっちの地味なものの方が年相応よ。

○上のような言葉を言った人はどのような気持ちだったのでしょうか。

また、それを聞いた高齢者はどのように感じたでしょうか。

○感じたり考えたりしたことについて、話し合ってみましょう。



この学習を振り返って ～今までとこれからと～

—— 事例①②から ——

高齢者をじゃまもの扱いしたり、その存在を軽んじたりすることは、高齢者の尊厳を傷つけます。高齢者であるというだけで、その人の気持ちや思いを無視し、勝手に判断したり行動を制限したりすることもそうです。また、「高齢者のため」「高齢者のことを思って」「高齢者を心配して」という思いでした言動が、実は高齢者の権利を侵害していることがあります。

「高齢者の人権を確立するためには、人を年齢で決めつけることなく一人ひとりの多様性を認め合い、すべての人が健康状態や年齢に関わらず社会を構成する一員として尊重されることが重要です」※

(※ 和歌山県人権施策基本方針より抜粋)

そのためにも、高齢者とのコミュニケーションでは、「能動的傾聴」「共感的傾聴」を大切にしていきたいと思います。

○今までの自分と高齢者との関わり方について振り返ってみましょう。また、これからについても考えてみましょう。

■お問い合わせ

和歌山県教育庁生涯学習局生涯学習課人権教育推進室
和歌山市小松原通一丁目1

TEL:073-441-3719 FAX:073-441-3724

※ 県教育委員会のホームページに使い方等を掲載しています。

http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/500600/0syogai_top.html



平成24年3月

再生紙を使用しています。